

令和6(2024)年度「課題解決型デジタル活用プロジェクト推進事業」実績報告書（概要）

課題解決者：株式会社グッドボタン
課題提供者：全国病児保育協議会和歌山県支部
実証テーマ：病児保育事業のICT化及び広域化

課題と事業内容

現状：施設が少なく、利用率が低い
・県内の病児保育施設は全国一少ない
・病児保育利用率：46.6%（全国平均(約45%)並）
・病後児保育利用率：3.1%（全国平均(約16%)より低い）

課題：煩雑で使いづらく、認知度が低い

- ① 利用の手続きが煩雑で、利用しづらい
- ② 自宅の近くに病児保育施設がない
- ③ 病児保育事業（施設）を知らない

事業内容

- ① ICT化：クラウド型病児保育予約サービス「あずかるこちゃん」を導入
- ② 広域化への調整：市町村を越えた受入ルールの整備
- ③ 広報活動：リーフレットの配布や周知

② 広域化への調整

広域化に向けた和歌山県ルール案を作成

- 1. **利用前の登録**
「利用者」が「施設」へ登録で県内統一
- 2. **予約確定**
居住市町村の優先の有無は市町村毎に設定
- 3. **利用料金**
市町村毎に設定。市内・市外の料金差なし
- 4. **医師連絡票**
様式を統一
- 5. **減免対象者への対応**
生活保護、住民税非課税世帯を減免対象で統一
利用者が施設へ減免証明書を提出
- 6. **協定金の算出方法**
施設への委託料を市町村毎の利用人数で按分
- 7. **県外居住者の利用**
利用可能とするが交付金や協定金の対象外

① ICT化

5施設で導入し、導入施設の利用率がアップ

利用率49.3%（前年度+2.7%）

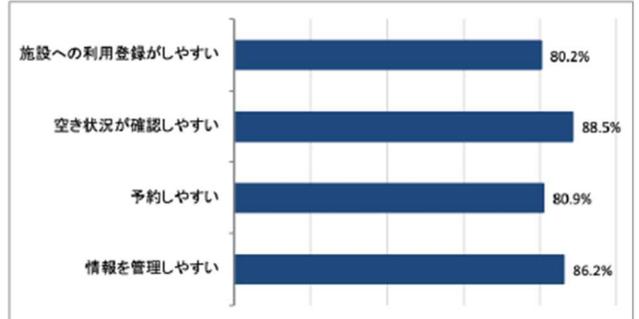
※ICT化未導入を含む7施設平均
※実証期間は4か月間（R6(2024).11～R7(2025).2）
※4施設で利用率上昇（最高+17%）、1施設のみ顕著に下落（▲17.8%）



〈施設スタッフの声〉
・電話対応が減少し、入室や退室対応、保育に集中できる環境が実現した
・朝のキャンセル後の繰り上げ連絡が効率化
・予約情報のリアルタイム共有でスタッフ間の情報連携が容易になった
・入室時の保護者の負担が減少し、スムーズな入室対応が実現

〈利用者アンケート〉

利用者の8割以上がネット予約の方が良いと回答
（システムを利用した保護者131名がアンケートに回答）
NPS +21.3（友人にオススメできるサービスと評価）
紙登録や電話予約と比較してネット予約が良いと考える割合



③ 広報活動

リーフレットを配付、きのくに21で特集

・リーフレット（25,500部）を作成し、市町村、県内の保育所、医療機関、こどもまんなか応援団等に配付
・施設毎のチラシ（500部）を作成し、周囲の保育所などに配付
・県ウェブサイトを変更
・和歌山県広報番組きのくに21で「病児保育のICT化」が特集
<https://www.youtube.com/watch?v=FDQ8ibXAPS0&t=1005s>



リーフレット



きのくに21

今後の展望

本事業をきっかけに、県ではR7(2025)年度以下の取組を実施

- ①病児保育の広域化の合意形成に係る調整
- ②病児保育のICT化・広域化に係る広報
- ③和歌山県「病児保育シンポジウム」の開催
- ④病児保育の新規開設支援
- ⑤病児保育のICTシステムの導入に係る補助金